



◎御幸橋架換起工式

滋賀縣に於ては、曩に二號國道瀬田橋及十四號國道野洲橋の二大架橋工事を完成せしめ、琵琶湖邊遊覽道路の新設を執行する等路政の爲寧日なき有様であるが、今復十四號國道愛知川に架す御幸橋の架換工事に着手することとなり、四月十日午前十一時愛知川河原に於て官民の熱誠裡に其の起工式を舉行した。邦家路政の爲誠に慶賀に堪えない次第である。左に本會々長祝辭、知事式辭並地元町會議員總代の祝辭を録載して、架橋工事が地方に於て如何に渴望せられてゐるかを披露することとする。幸に縣當局並沿線地方人士の協力奮勵に依つて豫定の工を進め、速に新裝せる御幸橋に接し度いものである。(小兵衛)

祝辭

御幸橋改築ノ計成リ本日ヲ以テ起工ノ盛典ヲ舉ケラル本會夙ニ道

路改良ノ促進ヲ唱道シテ以來各地ニ於テ之カ起工ヲ爲スモノ頗ル多ク滋賀縣ハ曩ニ瀬田、野洲ノ二橋ヲ改築シ今又本橋架換ノ工ヲ起スニ至レルハ本會ノ目的ヲ達成スルニ與テ力アリ洵ニ欣幸ニ堪エサルナリ冀クハ奮勵努力工ニ從ヒ所期ノ完成ニカメラレムコトヲ茲ニ起工ニ際シ一言祝意ヲ表ス

大正十四年四月十日

道路改良會會長 水野鎮太郎

式辭

本日茲ニ國道第十四號線御幸橋起工式ヲ舉行スルニ當リ多數來賓諸氏の貴臨ヲ辱ウシタルハ本官ノ欣幸トスル所ナリ惟フニ本橋ハ明治二十六年架橋以來今日ニ至ル迄約三十年橋體ノ腐朽甚シク交通殆ト危險ニ迫レルヲ以テ大正十一年度ヨリ十五年度ニ至ル五個年繼續事業トシテ工費二十二萬八千三百四十六圓ヲ計上シ縣會ノ議決ヲ經テ之カ架橋工事を着手スルニ至レリ而シテ新橋ハ延長百二十八間幅員二十呎ニシテ工法ニ舊橋臺ヲ利用スルモ橋體ハ木橋ニ替フルニ不燃質ニシテ堅牢且耐久力アル鐵筋コンクリートヲシ將來ノ文化ヲ豫想シ交通及運輸ニ支障ナカラムコトヲ期セムトス而シテ之カ竣工ニハ工事關係職員及請負人ノ熱誠努力ヲ必要トスルハ勿論ナルモ亦以テ監督官廳ノ厚意ト地方人ノ多大ナル援助トニ俟ツトコロ多キハ言テ俟タス

希クハ諸子宜シク此趣旨ニ副ヒ事業ノ進展ニ助力セラレムコトヲ一言以テ式辭トナス

大正十四年四月十日

滋賀縣知事從四位勳三等 末松借一郎

祝 辭

本日茲ニ御幸橋政築起工式ヲ舉ゲラル、ニ際シ其席末ニ列スルコトヲ得タノハ私ノ最モ光榮トスル所デアリマス。

オモフニ橋梁ノ架工ハ古來人類ノ生活ト重要ナ關係ヲ持ツテキマシタ莫ハ濱川ニ橋ヲ架シ、仁徳天皇ハ猪甘ノ津ニ橋ヲ造ツテ民ヲ濟シタト言ヒマス、政治ノ理想ガ「萬人ノ最大幸福」タルコトハ昔モ今モ變リハナイデアリマス。

古昔橋梁ノ架設ニ關聯シテ「人柱」ト云フ習慣ガアリマシタ。申スマテモナク迷信ハアクマテ迷信トシテ排斥シナケレバナリマセンガ私達ノ興味ヲ感ズルノハ其當時ノ民衆ガ如何ニ橋梁架設ニ熱心デアツタカ一ツノ橋ヲ得ンガ爲メニハ貴重ナル生命ヲサヘ代償トスル、ナ惜シマナカツタト云フ點デアリマス。ソモ、此ノ御幸橋ハ長クモ明治天皇ノ初メテ渡御遊バサレタトイフ光榮アル歴史ヲ有シ且ツ爾來幾十星霜ノ間愛知、神崎ノ咽喉ヲ扼シ湖東湖南ニ於ケル交通ノ一中心トシテ私達ニ多大ノ便益ヲ與ヘルコトニヨツテ價値ヅケラレテ來タデアリマシタ。

シカシ歲月ハ漸ク之レテ荒ニ就カシメ加フルニ交通ノ頻激ト相俟ツテ曩ニ一ト度明治二十四年改築セラレ、今又茲ニ當局各位ノ盡力ニヨツテ二十三萬圓ノ巨費ヲ投シテ改築セラル、運ビニ至ツタコトハ私達ノ喜ビニ堪ヘヌ所デアリマス。私ハコノ御幸橋ノ與フル便益ヲ享クベキ愛知川町民ノ一人トシテ其ノ起工ヲ深ク喜ビ、祝ヒ、且ツ私達ノ希望ニ副フベク些ノ支障ナク竣工ノ一日モ早カラシムコトヲ切ニ希フモデアリマス。

大正十四年四月十日

愛知川町會議員總代 久 木 尙 治 郎

◎荒川大橋竣工式

四月二十二日埼玉縣大里郡熊谷町、吉岡村立會荒川に架換せられた荒川大橋の竣工式が舉行せられた。昨夜來降りしきつた雨も午前九時頃からやつと霽れ上つて雲の切れ目から麗かな春の日の光が流れ始めたので憂はしげに空を見上げてゐた人達も漸く愁眉を開いた。去三月四日には熊谷大橋の竣工式が行はれ奥村前埼玉縣土木課長は其の式からの歸途悼ましい不慮の死を遂げられたのであつたが丁度その日は三りんほうに當つてゐたといふので此度はかゝる不祥事の起らぬようにとの此の土地の人々の懇望により縁喜を重んじて吉日を選んだのであるといふことであるが先づ此の天氣の霽れ上り方は流石に選ばれたる吉日と申さねばならぬ。ドンパチ／＼と響く煙火の音も急に勢よくなつたようである、出足の遅かつた近在近郷からの善男善女等の數も急に増して來た、掛小屋の舞臺で若衆の囃す笛太鼓の音も遽かに賑はしくなつた。

午前十一時式は新橋々畔に設けられた祭壇に於て官幣大社